

当事者

- ・ イベント、講演会や会議開催の際に、紙資料の他に手話通訳ができる方を配置する。
- ・ お年寄りなど、ご自分の趣味を人に教える、一緒に行くような場。
- ・ 余暇の楽しみを求めている障害をお持ちの方、相方の楽しみと生きがい、やりがいにつながるような場。
- ・ 当事者の話をより大勢の方に聴いて頂く機会を作る。例えば、公共施設設備について（一般公募では参加しにくいので、説明者が必要）

施設

- ・ 居住に対する不安解消（GH、一人暮らし、施設入所等）。
- ・ ふらっと気軽に立ち寄れてお茶のみできるような開放的な喫茶店。
- ・ バリアフリー（オストメイト等ある多機能トイレ、段差解消、案内表示等）
- ・ 社会資源の充実（安心して地域で生活することができるように）。

行政へ

- 1、社会資源の充実（具体的支援ツールが少ない）
- 2、相談窓口（気軽に行ける場所）
- 3、問題の初期対応
- 4、グレーゾーンの方への支援

地域

- ・ 地域住民は他人事。身内に発生して初めて感じる。
- ・ 地域住民、行政、民間事業所など全ての方が障がい、認知症などへの正しい理解、対応方法などの習得。
- ・ 小さい頃からのふれあい。
- ・ 広い視点で、地域課題の洗い出し。
- ・ 何となく不安な人を見かけたら声をかける近所のおばちゃん的な人の存在。しかし、やりすぎない、おしつけない。
- ・ 地域住民の不安解消（情報提供・連絡先）
- ・ 個別の支援から、面の支援へ

情報

- ・ わかりやすい発し方法、パンフレット（音声・文字・内容等）
- ・ その方に合ったコミュニケーションツール。

見えてきた地域の課題

- ・ 情報提供のしかた。
- ・ 声をかけられる近所づくり。
- ・ 問題が大きくなる前の対応。
- ・ 当事者が話せる場。
- ・ ユニバーサルデザインの普及。

見えてきた課題に対して、PJや部会で取り組みたい事

- ・ 「知る」活動。